禁中建武年中行事 全

9

ワ 3
2419

禁中建武年中行事

全

7堅3
2419

宮内省圖書寮

門 7条 3
號 2,419
卷

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃至伯耆守の国乃代官をなし一ニ心
をみがくもつぱらなるかのまつ（三郎兵衛）は人くあて乃
かこ（水夫）ひとり（ばかりの名）をくさつるとりのうさい（鵜）を取りて祇
園のうさとしきく典侍かたこと（言）をめしてうかゝし
ゑ女官（ばかり）きくさんうりの人（よのまつ）は（一日四位二日五位三日六位
のうさ人うしとうりうさにうきて乃上のうさ
を取つる者官ものかわ（孫）ともいつる者
の人（よのまつ）ひとりわ大孫（ひこ）なる女房（人）にてわ（さよ）すへてうれと（言）こゝ心
ばせ（ふ）ゑのおくのひんうしてこと（ば）をかたくなり
のうさ（鵜）をとりて二ちらいせんとうふ（ば）かり
めをかりもしうりゝ（鵜）ゝ（鵜）をしうりゝ（鵜）ゝ（鵜）ゝ（鵜）こゝろ心をてい
うさめおと一とふ一ふ心おとりすゝ三日のさらしかの毎
の才ニ日取おくゝうり御庄へ（の）ぐりつゝ世話くのうさ業

をとりてさつ三ちん（祇園の御庄の名なり）ひまみくのうさ（鵜）をとりてかの庄（園）いうち
にゝめらるゝとりのうさうしてとりてかにのうさうり毎りいさ
こゝしうりゝく女房よわちゝ話やひろ流く御ふりうそん
ひ（ば）ゝ（ば）めりゝ（ば）ものりわ（ば）ゝ（ば）ゝ（ば）ゝ

のみきりのとき御ものいまうの間のことをにしつきく
の人をかたらひ申上三人か御ものいまうの三位五位うちよりあつまる
う御ものいまうにもれたるまゝ神妙とつゝしみおとゝしまる
らうきくこゝろ三人とのこゝろ御りてたり
きくし辨卿きりうきて後人仲人の仕れ出んにるめ
ゆことさしのことしいもうめわさうま井かとこのわさ
らじきにゝ申ひくらひさうれいてもいる仲をい
せじよ八重一の上臈女房方り四位命婦進物不別当なとこ
のやくりきこう

元日節會四位大臣陣の座はなきとおもうまつ人
まわりもて位次の大臣をふくゝ人をきくゝ外位養をそうと
四位をたいうとゝ

をこのうくは
重をり志ゝ祝をくふうまうをとき
ふもれの祝のそそをとゝ下方へ
位不まいくゝきうきうそ次重上位仲ふいうん不ふて典位
劔と四位ばゝ人をゝ祝てこれとうふ四位
といてきもじかれるよいうる右四位をうる井侍子
劔ふゝ出法よさうゝ地まこいさうふえうる右ゝんを
きくなりつゝかゝいは紫宸殿出法西のいむじさのけさとの
きくまてをれときくきさうとのうゝくゝ人かゝいは左法
のすけとをきくふさぬらゝ上首のすけ二人劔璽乃四位
とふうとをきくとうわいきうと関白いさゝの二方れまゝふうゝく
筋をとりて出裾とうる義人仲出さうゝいもてまつる関白
裾をもうゝ人うわてをまをなをとうゝくふうれをうに

令婦四人義人四人はしりよりおしれを威儀女房せいふかの乃
方のうり井清子ゝうりいてゝ大家子（おほいへこ）ゝうりいてゝこれ共に
いまゝ上神酒（かみさけ）よりもせ白ゝく神酒（かみさけ）ゝうりの石の神つゝゝくれ
ゝをとゝそもつる左右赤陣をしく威儀女房神酒乃中
の戸ゝう東ゝくゝうしゝくしゝくゝ花よつきを掌行飯盛
と神帳四しんれゝくゝ志のうへゝふくゝ左四行つゝくゝ白て
盛と飯乃ゝうゝ面こまゝ沢ゝくゝ義人（六位）式のゝこを右の
ゝくゝ志よりくゝゝゝ上神帳四の れ倚子ゝ沢ゝ也ゝ近赤の陣
を いしゝゝゝを関白れ裾をくゝうをくゝ（そはよ者ゝ）ゝ家のゝくゝ
ゝよこまゝ沢（いまゝ）ゝのうへゝとゝうてれゝし
ゝ四弁陣の花をゝ沢
くゝうれゝうゝ沢よ 沢ゝ弁弁よゝくゝ四弁宴湯殿乃ゝ
ゝくゝ掌行ゝ東れいゝうゝの南のつゝとゝうゝをのこゝをゝ

井くゝめゝのゝうゝとゝ沢ゝ也ゝ四弁花をゝうて薄紙を四行ゝ
乃ゝ義人ゝ沢ゝれをゝのゝうゝを四行ゝ二人ゝとゝうゝれ紙の西門ゝう
ゝのゝうゝ 近障子（ちかしやうじ）ゝ障子（しやうじ）ゝをゝ沢ゝ障子（しやうじ）ゝをゝとゝ二人ゝわりゝひゝうゝとゝ
ゝ赤ゝこゝまゝく
ゝうゝ沢ゝをゝくゝうゝ一ゝ沢ゝゝゝ四弁ゝこゝゝうゝうゝいて、
一ゝ沢ゝ一ゝうゝ
二ゝ沢ゝ二ゝうゝみゝうゝうゝゝて神ゝうゝうゝ
にゝうゝ乃ゝ立四弁すゝゝゝゝ近清のゝうゝ乃四弁ゝ家礼乃
人ゝ志ゝうゝくゝゝ志ゝくゝゝ一ゝゝいゝゝ謝座（二拝）
又一ゝいゝう志ゝくゝゝゝ入（わゝいゝゝゝゝ

其近将曹門じうして門をひらくとたくさん
用門つまつりめるゝ陣官ひんらゝのいしはかんかくこ
也を申内弁又作云野ゝ元は酒りうれ陣官又うれを
はくして井しを門下にもむうまりてゆゝ元は酒さ
参う申内弁と福りとめて二ゝ忌等をらくゝあてゝ大と福り
いくゝ小納言ゝ元ゝすか納を門ゝり入くゝりゝ
角んゆゝ　ゝゝとゝ忌は三人ゝうゝ内弁宣さらさじをちめ
ゝゝくゝゝ　ゝ忌は三人ゝうゝ内弁宣さらさじをちめ
弁ゝゝ門のゝのゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（くまの）の社の酒盛りの盛況さ
けいこふれ（四弁）社をとらてうんらくふてうをとる
ほとうしのうとうとうとをとうすうこのつさにこうん
一こうんのもくれうり四弁社ふくきいくつして養
しくもちうんちにみなんまちん天許をいるこの桑
議一人を勢せもの様をおほとうあ法人社をすちく様唯
一このこ正志白四弁社ふ一詠り家いこつして社の四弁
作云四ふうちきんちにみなみな法人桑議ふきあるこの
ふらちにそりけうあをとりてうりけ四南乃ものこ
弁二間の西れてのつんりてうれ作と一つうしてわさく
ぬくゆく社えりみの祈也社よりうりくつさにこうん
一二こうんよりれ（）ふんおちうの白このくうち桑ひりの日月花門しの

左右桑人桑遊桑を養一このこ地道ふとふ心左右をの
二曲万歳示地久賀殿長保示なとの四代号桑にのりてわこうましふるのり
三曲とりてのくふうふりて三れちのの
桑をとりて四弁ふりて薄小つく宣命見桑をすなり
四弁文枝をとりて東階をのかりて東乃ひさ代河乃戸
ふり入くれくの小間をのり（）ふまこの四帳れ赤の屏風乃と
とに立間伯ふいて屏風の所さふの白ふあてしてそとふ
たれてこの小帳のうの間まに弁くのさうふこの四社の
かきとふる 御帳のうの間まに弁くのさうふこの四社の
と御りふいふりて御帳の立（）いふふしひく枝をれのふく
ふよりをくふりしすうとあまをうつせ法てふくふよとう
せ法れの四てふて枝をうくてふの四てふくれをのく四伯枝をうりて
弁ふりてふうく枝を御帳乃東れ桑のふてにふてとくふ
ちうきの四ふ御帳のうしふをとうふとをふうふ
ふうつふの四ふりんうにふてとくやふをふくふ四伯ふ桑ふそ

後宣命見参をめくらせられをはんぬ抑くだんの所々の
とうをはじめこのさたをいうつたへをはりぬ
おのおのこれをくすみをもつて
そへくかてよりもくに内弁小辺多内弁内侍とまいれ
いたるをもつてをはりぬ死せ
れし者五倫の道をはぐくむ
をはりぬ
らふそりて杖をへしてあとをとりてこの道をへくらん
乃かう参議をあつて宣旨をなす参議内弁乃うし
ろよりみくをいせらるべしてこれ筋をさすらるべし
ふしくはあるべをはぐくなしてなほふつる宣旨
のうちそれ宰相の大臣小辺のおのおのこれをいうさたをなへくべし大臣のお
きあふいさいつつしけいせらるべし内弁以下殿上人乃

らんに南北面の人々小そ内大納言以下みなりつめられをはぬ
異位宣旨をと宣命使下座してこんらんすべきこと
をはぬのうしろへくに日花門のおのおのよりていつ
おくこと無せちの西にはいたるべしさて宣旨の
南北の南小もくに人々そこれかりかりの色じをはぬ
行とをりいつもくに筋をこうて宣命をしくまつり
ていくこうわをくはせくに右の方へかと辞をさい
行又さたのしくに宣せいと辞に辞命と宣命使物
ものかりをまたてきりそくいうを辞に乃後乃さいは
わをするくはぐらはわせすいくかへかもむやうめくに右へ
とふへをはりぬ
めくりてさたのしくにきりそくに曲折のいうさたのしく
堂上乃元あるべく辞にうをはれ内乃宸儀れいつをはぬ

て入れ大将きいひらす大将なくハ泊ゆ事ハ
ゆ乃陣ゐいひらせう次近衛の陣ゆ
人とりとりゐすかゐる事ゆ泊ゆ
ゆらいの宸儀入御のハのハ
ゆとしせちゑの行ゆ
とを泊云御後機事やひ
ゆとりゐとりふ親ゆなりひ参乃大臣泊侍ゆと
の路やとゆ御乃とりやゆ事敷還御のち女房ち
せんゆく夕御時を供て二日二宮大食りゆ玄蕃乃
東西の廊ゆく供事ありちころハゆにそもいを
供をとりすゆ大臣ゆといてきく中宮玄蕃ゆ
御ゆゆゆハちくめてとこゆハゆ

ゆ参行しゆ夕ゆゆわすハかしたちゆ
ゆ〳〵ゆ殿りゆ〳〵ハ都盤ゆめてれゆいゆし
ゆ女房ゆ女房乃出方ハ
とゆ〳〵ゆ
ゆわ言とゆ行ゆれゆ
献ゆ大床ゆ
ゆゆ御ゆゆ
ゆ女房ゆ
ゆ日ゆ
ゆ御ゆ
ゆ
ゆ
ゆ

久しかれとのつたのまを申しこせんいんぐ
きけもあるべきのなりとて一人まつるや二三日乃
ほどつ弁こうん義人ゆるして右書をこうんまれひの出元
ゆて清らんす弁官ていしゆ人文校おもきみく養を
まり年中行事陰ゆ乃ものくみく天氣をうゝ如清家
文とみく稼作ゝてまこひさにたゝむ清元の南乃乃よ
ひさ夏つゝて元さ社おゝゝ小膝行ゝなゝのゝりて養すれ
をとりく清前ふかゝく弁志ゆきてまこひさゝよあゝせら
してさゝ如文を清らんをそのさわゝまけふをゝしまとれ
おゝかけ見をひろきくまりけをきにゝ下乃つまれひき
くゝ社ゆまてかけをこのれくをひへく右のてきく中の
あをとりを見のゝへひさわゝして右まんゆしてその

まゝにをんて左れゆゝてまりけ下のつまをひさつまふ上
ゆれさをひくをて右のてゝ乃きをうふをりひくゝ右右
のてゝていろをくゝゝらんをゝゝて右乃ゝて
おゝふまれゝめくゝ右れてをゝゝつゝ清あをこのゝゝとた
右ゆのさゝかひくゝ右右れまをくゝ如きくゝ右のてあく
かけをこのれくふをく二ゝゝふをゝみをゝゝ如ゝゝつけなゝゝ右のゆ
ゝてゆれくゝ右乃ゆあてゝゝゝをゝゝへてゝゝをくゝれ
のゝゝゆまれをゝゝて清前ゆをくゝ弁校を右ゆをれ如
をゝ如ゝゝゝてゝゝくゝすんゝゝてふをれれを右
をゝ如ゝゝて如ををゝくをゝゝまゝて
のゝゝくゝをんくゝ右のてゝゝゝ申山氣色ゆをゝゝひて
ゝゝて右ゝくゝ中を社ゆくゝゝ弁官ゝゝをゝくゝゝ
稼作ゝを社清如ゆゝんをゝくゝゝ弁官ゝゝをゝくゝゝ

文を校よりうへくまりの門文のうへよりて校をとゝゝうさ
殿上乃間酔わり歌人の所へ下おとしたへかのこゝし
さいうへうへ六位うへ人々くんをいとらう孫二首今様一首
三ゝんのしさくらゝ歌人ゝ也しゝ歌ゝ
うれをしゝ賞賜してひりぶらうとさ時うしくめく乳
今マヤの絵
舞ゝをとゝ女みが花ゝうまゝ六位こゝうゝ歌ゝてゝ
ゝ歌人ゝ以三角ゝ人ゝ清ゝ
ゝとゝうしとゝんゝ白ゝらんゝ女房ゝとゝ清ゝ乃角ん
ようゝ女ゝとゝて中ゝさゝとゝいさゝしとゝのゝされし
位ゝ六ゝの花ゝゝてゝ月ゝ人ゝゝゝゝ
五日叙位議わり大臣ゝ下ゝ位の花ゝしゝられゝらゝ紀ゝ

けゝ且ゝ人ゝ以ゝ下申文ゝ養ゝ酒清ゝ清わゝらゝ
ゝて養ゝなゝ文ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
右ゝゝのゝゝゝゝゝゝ紀申文ゝゝゝゝゝゝ
砂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
南花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ歌ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
外乳ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

下社とうして潜下をあらく（西儀は後と書）ゆきとしすじ大臣
南らの下に引みなこむき 納言ゆきん乃らはよりらの（後ろ）小上西
めじ引参議東上小西ゆりたこ西さの外流まへの意まる
小上西 関白なとも白板上ゆてらくなじよ沖前は死よつて
大臣いうあくくそじ大納言ゆ下みかいうは大臣らも死
乃のら大納言ゆこ文をうりて六位弁死ひさ西つそて 右兵衛門
らひさとみて 入くもこむうしにのりはもにそひくさ
のほう
西いはいさら中にりて執業は死ん死のまへよもそう
はそこをもくもりつさうにひさ西つそ膝行してす
見らりて硯を地はもそて右乃ひしてそくあはおと
て硯を下の加ゆ紙をんさにはむをそそはたりき引しと
いさら出前のくさにむきて筋をぬきて井かう左り

めりて右りそく史参のいてをつをかうす時つきの人ら
のとにもくいむ右いはよそこをわりて清前はさにて一
は大納言はとこ文をうする参議一人沖前よつはく
のら清涼殿をひらて人くら中のわうをはらんして
大臣をあをこれうとは河せ彩大臣稀唯していう
右くくくむ大臣筋をうくしくいくくと作らく
付筋とうはて右はてしくくこのもこをうりあをく硯
とそのはとうを光さうせく硯のにはこをを義て文出
和次のをこにうはて十年学はりをのこて筋をは
してもこはりて膝行してをみくんをうりは
てうり先くくして下の方は清涼殿むを巻て出殿は
内ふさく入大臣いさくう右をはて義て筋をぬさて俄十年

為とれ詰めて左の注こなる清麿をもって
大臣箱とうってもてみるに出麿といさうりけてもこと
ゝしめんの方に立にうりて祝をとりのまに引うふ大臣箱
を示して供みうとおほせわり大臣をみとす筆をそ
じ祝のおわる紙を二百ゟ一所ゟうわをてゝ紙を
ゟりてまた入ゝくゝゟ開かいくけをりとゝるの
行人をゝとおせられ新をもうひてまつ後
五位下也加一二人をゝ武部氏門を
叙をこのあのさをんをいわり流文の清申文めゝふつたん
と養勅許のゝ近衛將をゝてあれを後出門文
ゝりてまゝりゝ重をわりて養関を十年当年
ゝ時のゝゝゝうれをうりくものゝふゝとのゝさうけ

加人をひきうりてゝ上ゝ九出門文の申文のうりを西北く
しゝ西北行ふあまゝりさま祝のゝこ九申文をりゝゝ給
開白在まゝつ行くゝゝふいよひゝゝ文乃く祝爺いつ後ゝ
并ゝこおりうゝふゝりてひそゝにな上也家人今ひよ氏の
ゝゝなゝゝのゝ叙ゝいそゝりうゝりゝ西也くゝる
を行くゝりゝゝ西よゝゝいよの養をりうく年号月
日をゝ紀くゝりゝ出ゝ二西ゝこよ入く養申文をこ
祝を清ゝんゝて西行大臣夜ゝよいてく清書のゝ上に
ゝゝくく大中納ゝ乃乃れ門ゝをゝりて陣の先小
つゝく番議ゝおゝせくゝり名をくゝ出又大内祝ゝ
日をて位祝をゝりくゝをゝりゝ入く養おゝをて志
ふいせゝ出ゝの後又清申奏ゝ出清門おゝりて養

[illegible]
[illegible]
[illegible]

七日ハ白馬節会ゆゑ[illegible]日ハひるにいそうもれまいりの日ら
宮より伊勢[illegible]南殿の御帳装束[illegible]の人々もう祝文よゆつる
清帳装束乃[illegible]かとハ元日ゆ[illegible]すうりかうもろらい
のやうに次なれ[illegible]ゆつるかさ[illegible]ゆうの人[illegible]
をなりれ帳[illegible]をひけりやの人[illegible]とつひれし
御帳ハ三方わけて[illegible]ゆハ村[illegible]
平文の北倚[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
右[illegible]

[illegible]
[illegible]
南ハ二の御[illegible]帳[illegible]のうへよ小のうしをうを
て南北ハ色ら北ハ黄すてをうくられ女ゆんのかね
いわゆ大[illegible]ハ初のうれハ初よ[illegible]ハ一二乃沖
せいすをのくこ花ゆ[illegible]ゆ[illegible]
初色ら草とも[illegible]
んとつけてたくゆ[illegible]ハ人のせいゆん一三や
くうれ[illegible]たにこむのねを
そうゆ色よそ地を[illegible]
えしをかくはよえしをくはよ元ゆをとり親と大
良のまうゆまいゆて細元ハ[illegible]議の北ハ

ありたるうしろ御帳のうしろ
せく人来れ屏風をたて
よりて御帳の西のうしろ
しさまへかたうなる
いうれ西二方は酒巻
妹家をたち宣命乃
角人乃東西は信記の安
このもむ胡へいのて
南庭みなみのにわ
大臣参議まうちぎみ
ろ
百せくにまことかさいまた

東より
通障子を二さまに
内侍の充代
南階の東西
東西面無
上階ノ八式二
系列のつ
極殿と
とんこだり

外記たちつかさ
いまはめてしゆを
のいとしか位奏
まりけるとき
弁充のまへ
内侍信記のこと
ことうさ
弁の陣
くるまり内侍
すみて下名
みよつそ
をのけるあ

申さしむ
申こと
式部
位奏
武芸
蓋盤乃
信記のこと
式部
式部
内侍宣陽殿の
内侍宣陽殿の
内侍

より武家には四位のくにたちとなす孫廷おくらい
をすくみくしさあつまりて下名をなまりなれよりあ
はいのくにたちまたあれし二省乃義ともにたりてく
四位又東階よりくんてなす大臣孫作おくこむら
うりう祝うすみくく祝宴をとりて堂上よりあり
大臣ちさくくはをなす二ゑ四位くられ本のもに
もくむ作云のくはたちつかりくつたさせ二省の補代
橘ゑ本代下ちあしたりて武部補代五位堂上よりす
むゑのもこゑなもあ二ゑくはりさいまとゆふ補代義よも
ことりくめて又かりさいる又一乃もこと結又はたりの
つたさあ決補代まりてもこれはたことたのくく二省
もこと義よりもくくあるよりてもりく四位

開門位と屬月充づつきて二祝りすると元日のこと
祝ゑ祝充祝酒おもりて當上れ充よはく四位充を
ゆりて叙位れ宣命をとりてえりのりく四位よ
つりく美月をとはたて杖をとりてかりれる上
階ゆりもこゆ中納言の中に宣命使をはもこうれも
ゑ祝をつとゆ大臣義よ作くく叙列をとりまりす武
兵補代叙人をひきくく弟座よすゆ補代ゆゆ
りり叙人ゆつりりゆ宣命使ゆりてりくて宣
充をゆりる大臣ゆ下こ充宣充使こゆらりりく
曲折ゆいりもくゆるよゆむゆて祝りてあのりこれ角て
式業二ゆ角ゆいりり角んよはく宣別のつこ元日よみえりゆし後
のはひと二祝りり叙人ゆこいせを宣命使ゆのりて

大臣宴のくのりの式の叙人とのの東乃きさ
ふ
ふみ〻く位祝を〻ものふの蔵代うれを毎ふ東代下にひさ
つきて行く〻いさうのちなるいうしてきりそく
式ハ者ふ者ふ
ハ者ふ者ふ
ハ者ふ者ふ

東宮をわらはしまゐらせ給ひ
しかるに近来官人とものうへのわたのことをもふいてきり
ものうつりかはりをふくるをうちのゆへおほうの中文
東三条のもとにくまつる節会乃宴の陣ふてきむし
ゆ雑色をあくす卯日にわたしゐ卯時志の参ゐり
六府枝をそなへまつるけの方ゆ参ゐり
はしをさゆりて卯枝をかうをとりくしたりわ
わりゐんゐよりまつる中文参ゐ参ゐ
ゆ色文日をはしめてそなへまつる雑色義人禄をあふ
六府をそなへまつる卯枝をとりくしの清涼殿のおく
乃日枝乃ものに参ゐり

八日清涼殿八着ゆて仏事わり上はまゐりしゐ
真言院乃御修法ゐ御清涼七日法とゐ義人をゆ出
をはりゐ清ひゐ色をはこよ入くわけのつかあてこれ代
修ふ人元法ゐまゐ清涼をつかすおとゐ
女叡位陽年にゐりゐのの出籠ゐまゐてそのすよ
本下をそなりひの清涼よりあさ清めにりて大臣孫ゐ
さうの急産ゐの作よりて硯紙をゐたるのこうそ作
をゐ位の義人をゐてゆまゐる申文ゐて清硯のうこ
につこゐりたんをんかゐるんでんきゐをひのゆ文をふ
ゆわゐいさの世々清ゆこ
ゆてはそりをゐり典侍掌侍命ゆゐ人中文清給ゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小島親房書し

正平七年冬作入道准后令書写之就同八年正月十日
校合之参議左近中将藤原朝臣公冬〻〻

右正平七年准后自筆也

先代上表の正平書写者也　校合主黄門与洞院殿
文明十七季九月　自下自書し　十月朔日
書添了　　参議藤原　判

中

十日　[illegible]除目　[illegible]
頭以下五位殿人　[illegible]申文　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]

長乃庵をまうく時刻より大臣以下陣の座ふ候うゝ
ゝこしめしてあるをすまうこと文ものゝ合やゆをそれに
すゝ頂みな叙位ふこれ有り重はうさ祝て引さうに上達部
法前の座まうけ紀ゆをはこれ
大臣座庵より次の大臣二人おなじく座庵はこれ
位らく時剛宮ちゝ宮の剛こと
すゝこと〻こ重ハ正権ムゝ人二ゝ有や作はりてとゝんを
ゝう業をそゝあ大間をゝ座のゝ上のゝ
わゝをけゝをひきそゝ紀ゝく大間のゝ
月を座のゝふゝをきてゝのわゝをにゝてこれをゝるゝし
ゝゝひゝ〻ゝるゝやゝりゝや業にわゝゝゝるけ
ゝと大さゝれゝゝを二人ゝゝゝりひゝきゝく文ゝる様より上下

れゝゝをひきゝくゝゝくゝゝゝ

初くしに紙を入れこみ
もとゝ式すの左のゝりて硯の下をおさへて書くこと
とすることわりさ一會のきびしいつゝとといつゝ筆
二分ゝ深くよ表紙ひらきのうへよりしかくとゝ
さて四隅ゝ付け労帳をとりて次第よりものを組を院
文の清申文とりにゝ
ありく糸議一人をめしてものを作すこのゝ
もとりのなこ付申文をそくさる開白紙くゝ
開白紙こねりゝ人ゝ人ゝ
いくものをこゝとゝ大臣硯山下を向へとゝ
くすゝんてなまゝる開宮性のこと糸議御申文
もりてさいて大臣ゝ二三通の外ゝと

こゝよとゝ大臣ゝ
結ゝしゝゝ
硯よりこゝ乃ゝ
開白紙をねりゝ乃
枝書ゝこゝ
しおりゝ
文御清ゝ
ゝ南年結ゝ
けゝく糸結者ゝ
糸議ゝて外記ゝ
まを四ゝを紙ゝ
つゝなをゝて
養をゝ
結ゝ
硯ゝ
紙ゝ
ゝ
ゝ

院宣の御申文乃けさこの内に入るとて四位
て二三度りてうさい福り志くこう祝をゆ面ことにいう
るりきうさい福りを申ところ乃ようぬとゆるくと
ゆいく志ていよさしてて志てけちはくゆいてうよ
さうてうんを行くたまに入るーくうちへさいつねをこ
久い業議弁なくいるすへしを又とて大臣たちの
和とにつて人をとうて外記乃ゆ福りめつて五位殿
上人大い内をかきくきしむるいのことわり義人以仕
とむきいのひとし

廿二日甚俣昨日よりかるーー大臣御前乃毫むさにいき
く筋をたくしうくいへは大され和をいくさるる給きく

みを我ものを家様よするやいかれを毫ふことかく
れいとし大臣以ゆを行頼宮恨ゆ面ちうふとし前よ
をくこうしをこ五合ゆなる大乃くつをそ御をりつれ
いやうくりをくさるを下かむうふへ業文をいみる
神書くりい業議うへの申文をかゆ記かむくゆけ
毫をとゆくくまりう大臣を毫を乃て前よをくく又
こうしの申文をーかむうるむ大乃二日三日よ毫乃
申文を養頂ますをうくく又えらしうのつるまをを
りくて短冊つけ神乃紀して家れて人をうれ
をこにつるむうーきことふいくきゆく職
まをうあいをすゆひつをいゆむをいゆ晩日のこうこうこう
頭宮れ拳うを右衛つの尉を申外記史をーー

又ゑ屋ゑのゝく上首のこゝとりてたゝ宿あまを義
糸議もて月ゝてとのゝゝゝゝじなれを巻申か
きゝゝ義申みを養ゆをゆくゝめてゆゆゝてゝ
へゝたまのゝゝくゝをゝゝゝゝなゝ義ゆゝゝのゝ
かゝゝゝてゝ大ゝれをこゝ養すゝゝとゆゝのこゝ

東三日ゝ秋乃儀のこゝゝゝゝかゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

は奥福寺の権官なと時よりさひ高の人
論遁とあすり称して松しはいかうし四そ松し大法
師号といふ二人ありに法花の元品よりて論義
をありとあるべきかいかしいそ云卿以下ありをとこと
いそくみれをそく

十五日御りをかまいりかうをとりて人
こつ忠典てうらわふをとりけり

十六日踏歌節会三ちじまそい元日にいとりすす
樂をそく舞妓南庭とあるをとりをそ多い
内弁御後、職事や俗あれうといふ舞妓左上の
小庭ふいてく校書殿ふかりん寺う西庭
よりあんあらとをそく二行よりまりをなり樂前変
とふりの常御をしてこれをみちひく橘の南さ西よく
うい西の舞妓庭をそんなること三反回教坊をり
よわ四舞妓ハ西結西あれと后文をとりいくはる
へなり舞妓のをいををはきよ宣命つひのをいを
多ハ一ものしよくをはきの勅使二ものしハ樂三ものしよ
舞妓なりをりをあり高会をそく舞妓中宣
りまいりをうをくあり

十七日射礼建礼門のまへのをて上二さいしをう弁少納
云四府かとまりりてをうをいを

改らめ九日なり人々れてこの内ハ出仕えてひくあり
上へ以下位次五ハ有り拾りを有りさいしつ廳ひくおれ
りさ紀弁少納言外記史くあり〳〵みくるそこ
上へ〳〵わ重ハ大弁をちりこつくりのことハて
為れ不ちく言むらいありいて学ちとていて海よ
なく他法ありをそ入四〳〵く左近陣よひく
右書乃養九日なり人々れとき日ハ衣えひくひく大臣
まいりて養を拾出のうえ紀伯てくふとうのうひ
らんうを白んとりあん申り政始よりあひひる大臣陣
のさにつきを重ハ大弁申文あるうれきうて

家ゐにつきをのくちきの弁史なとうてみとれ弘
きて見いくぬ重ハ位史枝よりきうてすむ心大弁
さ紀よ弁家よひなて申文とりを大臣きくすま
ハ大弁の白りうる史宣仁門り入く宣陽殿乃ん
上と白くい庭よ枝を結くひさ四りく大臣目変
ゆ弁とすきてひまつきて文をまいてす大臣文を
とをくれきて一ひくくくく結うんひりあふさ
してさ〳〵ひる史うる称りて他人ハ文をこひ〳〵ニ
いせうちく枝に文をたんうくたりうく大臣事の弁とう
して養をつ姫うを養を弁紀れ弁のまへ紀ふん
ハのきをのえんあくたちかいまう紀きを養をて姫と
り老人ちりてきりなる八宮養の御装束せうと

作らる御殿出来つゝくハ毋屋のはまんあけらわ
ホテ〳〵ゝ許や新源ゝの御ぼしはつち弁をりよむ
ゝゝや御元りおさ也毎もりして弁とめす弁年
中行事の陪膳ハ御新色よ志ゝうしゝいせう
して陣よいてゝめす大臣ゆそしにもゝみゝ元ゝ
門の前ゝゝ史よりゝ也毎ゝ方ゝ也ゝ右ゝ
毎枯ゝゝ危のゝ紙いさゝゝわゝ志陳門りのゝ
て年中行事陪膳乃下ゝゝ者ゝ
天氣とゝゝ出日の後毎ゝ様唯志ゝ元ひさ
しとゝ也へゝゝ御元乃次の月ゝりゝ志ゝ次
オ〻ゝゝりて清前のゝ也毎つきて勝れして
のゝりてゝゝとそそゝゝゝゝゝ出前よ

と也清尼の手志て杖をゝゝ毎ゝおゝもゝりひんきに志
毎ゝ大臣逆行しているひさまゝゝきけゝゝ示ゝて立ゝ清
示ゝ元ゝ大わよゝいゝゝゝ志ゝゝゝゝゝゝゝゝゝて
えんさに杖をゝゝゝゝゝ文を出清ゝ出ゝゝ様元
よ志ゝゝりゝ紙ひ祝り元ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝ御前よゝゝ御ゝ大臣右乃方ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ元ゝゝゝゝゝ毎ゝ志元ゝ尼ゝ
ゝて尼よ弁ゝ志ゝゝゝゝゝゝゝ御清ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
何ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆえ[illegible]ゆえ[illegible]て[illegible]

御いの日始十五日より[illegible]日まで[illegible]

[illegible]屋をこしらへ五位五人つゝ[illegible]

事ハ二間四方[illegible]

[illegible]法勝寺乃住学生をめし

二月四日より[illegible]

白川院の四前後[illegible]

[illegible]

[illegible]

申の日あつまりて四位むろ義人お車をとりてまつる瀧に
とりまつる女上〻弁を乃ふうむろ
丑乃日そのうゑ神社さけり上〻弁四位むろ
卯の日大原社へまつり近衛乃将乃むつ伊とむ
表日参のおとゝ上〻四位むろ
上乃丁社日大学寮にて歌奠あり孔子ひよ九
哲の巻いけみちゝ儒義を上〻乃弁を
まいりてあう歌さらに寮の座に位文章博士題とゝ

にわくる日さくてんのそまいゝを義人一人とちくわさ
ゑ巻いの前ゝすゝむそゝ人又人はてうつれされかるのを
のこめくわ巻いをよろれりのそゝつふゝ人ゝくへく
ゆむつのはくさのそそまつもつけゝ歌奠の花と
そゝをなくいゝてもくゝをりちく巻中へ
いくゝり
新年穀かうついこけ月の中ゝゝさ日ちくくそまつ
ゝ社ゝ二社も上〻ちんのさふて使をゝゝむ巻日まわゝ乃
とつ巻日ゝり
を行ゝゝ人ゝ神くゝ備ゝゝの八幡中納ゝ賀茂平
社松のゝすか宰相ゝ弁ゝ位五位ゝいゝゝひよゝ八
次官あり弁乃乃ゝ位ゝ定文弟ゝく上卿義
関ゝそゝ下大内記宣命のわんを上〻づけく義

を御覧ぜらるゝ所の宣旨をうけて其の
ものに入くゝ義を伊勢の花のうへかゝれたる
の外みなきものなりつゝふ清らかにてせうふ
祇園乃行幸の上使の上卿中ゝ義して
上に祇園宮のまゝ使ゝ曲あり給伊勢乃
御幣義を乃りて西殿あて清祓あり幣帛
ゆうして弁祇園よりよかしあり これを前後祓ゝ
は二社ハ
伊勢　出雲　賀茂下上　松尾　平野　稲荷
かもの　大原野　むかひ　いそのゝ　大和ひろせ
ゆ田　住吉　日吉　梅の宮　吉田　ひろ宮　祇園
小野　ゆ殿　貴布　三月二日御炬火ゆてまつる

貴ハ其厳寺ゆゝ人ゝ参てさけゝ彩ゝゆ一条院御
祀ゆ見ゝゆ一日ゆ交ゆ日ゆゝゆてまつるゆいゆや
のゆゝゆゝてまつる縁氣あるゆゝをゆいまなさもし
ゆることゆゆゆ

ぶと八申かとたのもをもつくわたきをのつをとをいをの
うりわくさしまいをらとをと生こ出やを文を出りをきてれわる抱
いをすれば易をまつをとをとをいを海清の後やをてまいをを
御祥ことわりを所をさい祥なり例をひををををひををを
御祥ひりをのをと長暦のをわををありを字治
関白よ作わをせら新をうををへをまをは出祥わを
後ををらをれりをれ四をひををを出てれ祥れ後
朱雀院御祝よんをりを出をを代を清祥あり祝
出祥なを紀をををを沢を出をいをををををいをの代よ
八治祥り祝し清ををやをとをを

三月中のををを出をををををを

御馬出張危右ゑもんとうけ御馬とめてゐ渡しそく
十足をさむ幸府官人しなのたゆる作方ゑれ大將
出るのりまいるを清馬のりくすふうたての出ゐ
開白方ゑ大將法院出むまつなとにゆたり御渡
をてくこ日さいろうする色し
前二日しりに試楽乃をとりち氏方ゑ歳ぬと
今代めうをこゑ出をこひさうよれいりをく
てくはかをうらされ色ゑくくわれる色ゑ御倚子
御をゑ乙卿めりにりてをのこゑ係御をし
うう梅四位五位乃殿人ゑ色乃りに地下殿以年
中行事障子乃りとにのりうゑ義色をうくひて
ゑりをとれく前庭をわりて瀧乃戸ゑくを

人どもすもゑ人りきあけのそく色いめくくを見ゑ
竹のくゑ乃りとに竹をかりてうをにすゑ仁壽殿
のられ下ちをくて御前ゑ御りゑ行幸
らゑ中ゑ色いをを清のめ人りあゑうひことゑ色ひ
ち戸紀わはせち第人ゑいとをりてをろ紀てうぬ
こそをにろするを第つ孫のををそぬれい大氏れう
へをうひくを色ををを色ゑいはいらせなへを
平伏を
その日よりゑ色ゑ東ゑんゑ御をそのゑ和わを
はをすをまくをら氏そうをにむさまをのつかりて
をりちまゑ人ゑ下ゑ裝束をけわを氏第人と氏井
ををくゑ人をりをけてまゑ色ゑ御衣を着

[illegible]
殿の四まんこくの[illegible]
さにしきの[illegible]
[illegible]り御産乃つ紀南の方のとゝりよりはゐいれりんを
[illegible]又文のさねもきわさ[illegible]をつをとゝ又ゝにさ
[illegible]り御帯ゐをとわんまゝ[illegible]れ前よ文を[illegible]
のうゝゝよ一丈ゐりの[illegible]をて使の[illegible]
ゝゝとゝ時刻に開白[illegible]ゝ[illegible]の御簾とか
く御産よ[illegible]白御下かゝ[illegible]ゝ[illegible]
せく夜上よゝゐいた頭御わ[illegible]をかぬさまゝ御焼
乃出ゝゝ[illegible]乃ゝゝ使産[illegible]ゝ[illegible]
足四帯の[illegible]ゝ[illegible]一五三のまい御馬とゝく舞人

とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
乃ゝさにゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
四御ゐりゐ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝひりゝゝ御ゐゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゐゐゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ使四帯をゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
御せ四ゝんひゝものゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゐ面ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
てゐゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
上ゝゝ四紀よゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]の御倚子の後ろに人ちきに
養をそへ人殿上の出ゐてとうきて孫ひうこのうへ
君よりそれ見をれわたい八寸許とくまりかりん色の四
ちうひのかりてあじをいをちさちけてとくかさ高二
君ちうおそ後出ゐてよ後をを結周白御簾は裾を後
例のこと御倚子乃南にはちをたる見をくすを
いそうの人ちうの見あちうてうの人の頭年中行事の陣の
下にをくじ天氣をうかひくひくををめ殿上ち
をりて仙花門ち入をうを色の下袴をぐはりをうう
ちよ二をよつをちうまへうちうをくうをよじひいうをく
ちりぬをを殿ちうをうをうを又をうをを年中行事
乃下にをく天氣をうをうをひくをくをりてをにをりて二重よ

つをををを乃わひをを高をををををを乃下まて
使ををををを

月ゆきく梅せめて流せみりんてむうんわうの
垣下のさゝ二枝ちくゝ伝殿上人垣下乃垣いうゝ
とゝふ二ゆうこのちんよへいゝゝゆゆ祝の次こちん
つさの人勧盃とゝ付ちわうたゆ中むうん垣ちつ
い垣下れ所の人りきす上ゝけく一の舞とゝして
結うれ後次第うくゝすみひわゝふ献勅盃乃人え
むゝ下よ行くこちむりゝふみちんとゝりてかうゆうき
のゝとゆうちうへさ殿上人へつひゆしよみの舞の
まへよ井ゆうこゝりさこれゆ乃ちゆ伺えんさゝ役五の舞
結従乃舞ゆゝこの角くれ人ゆうきをかうゆれてみら
一行くのゝてすむ龍ゆさこれ乃ちりれゆうきをゆゝりて
ちゝく結従のされまへも五位乃ちゝ人へやゝ役のみ位ゆ

ゆ乃ゆとにゆりて長ゝれつまにゆるかうれ面いとゝりゆゆて
一行く上達部ゆ行くゝ垣下れ大臣まゆゝとゝ乃ん中ゆて笏さ
し花の花ゝとゝりて使のかうゆりに寄左ゆゆりて走り
ちくちくさゝゆの走りゝゝゆ横ゆうゆゆと舞人へのさ
しさくゝやちくいよ上達部ゝとゝゆ五乃舞海前よ
わゝりゆれい右ゆゆゝりて走りちくくゝゝい中ゆのまへゆ
けゆゆちひゝゆれゆ乃ん中ゆゆれゆゆちくゝ次
ちゆくゝゆゝゝしゆけゆの之れよ寄ちひくゝとゆゆゆり
上達部かさゝとゝりゝちゆゆまはつひ舞人走ちくゝ
ち入て結このひやゝくゆ也結へれゆ中さゝゝいゆ
しかくゝいゝ也結やゆ面ゝゆや二ゝりしゝちくらゝいゝ
さしとゝふゝのかうゝの寄い花人へゝりてまゝりてゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月ばかりの事なるべし。前に御ものがたりせしくわくらんは
殿の帳のうしろにかくれてとりそとにうちはめく給とくへ（ゐ）て
ゐかしはなるとあるうちに紀ゐくもゐんおりたるかの
りすれはゆくへ御なとはいはれすくわれはりとゐれう
たうはゐてゐるうちにてまつ女房きぬわらはゐ黄ぬとも長
くれひとへくきぬとうをとらゐてつ稲のうしろ旬かこ
ゐ黄ぬうへ上達部陣のさに低ゐ黄うめていて女
ゐたすわとにかりてゐたこうへとゐ上ゐ宜陽殿ひさし
よゐ懐来せうてうりつてこうんわり弁少納言さ
酒上ゐ元しきくわり行法代少納言へ方物おすくはく

ゆうしのうひさつなてうてあらたんとのもし心見系禄
法めて養をつ稱のくしめしうことなふちなまいを上を神
西殿小ゆくりり利西殿乃東の一月れことり小上首利
やゆ和言為じんとりてまり利遊よりくんくこうふか
蹴ゆしたちあはすくじるる立られて神奉ちくり利
上申れ日じ神のまつり上ゆ弁内伯むふを赤のせう
じひしく見素とやりて四さいりて奏をとむ中れ祭
あり申伝れ五上人つひをれとむを赤れ奉人ちさふ
出為いあり出へいなとかとの陪河乃まつれらしこ月れひ
こに神社をまくくれじ黄二月ちりお神
酉乃日じれるろりふれ齋祭ふおとしこ四日むろせ為つ
しの系ふいじりり伏出へいきのふ利

大つんれるみのまつりとふるを祭りり風あれ
祭をいのる

七日黄ふいの養上ゆそりりんす二月の列見れひる
りりハうれをれふるなり

卯乃日大神のまつりや世の日つひ利大系れてなり使
利日出神事や東之中交乃神祭つのくしに
まつりをハうれ日使利ろれゆへを利ぬれい交ハ卯れ
日のわろ黄一西ハタようつふゆへなりとふ
八日灌仏あり神事まわるうるる清仏わるりハ昏
り法神ゆやりふいハ為乃布施をそりそをや

さるべき人こそまじりたれ花をつけて風ふきあるいは
をはの新世界ふそふ[illegible]といと人をはなる殿のりわ法
華人とうれてひの西方をとなりとそのわとに山こそ
てきり佛のじまれ続きをはなりくいとかく光花
をれとせり色こそ人はなりのあるかるこはなく
とそそはちなよかるものを入る鳥まつりあつまるとく
殿上よさうの女房うたまれ布施とを衣ときれかるこに
入くあいうん布ちりのせいの蓮人うりく殿上のあいん
のよとそくわる花かんちちをはいらしわる花のえを蓮
はかりくあるところのいるとをわんへうじより上を部わつ
布施のあるはるく紙持くはは殿のかりれ上のるを
ら来れはるくあにとをくはるはるはるはるはるはる

かるをそりまつぬ人のふせは蓮人上を蓮をを女房の
ふをれかるく蓮人をくやはは寺師の僧れかるて仏
前乃さかりをそりてをちれをとをわをくはるく入く
まりはをそりし灌佛を鳥帽次第ふしんくくく乃
乃をりりくく勞さし勝はをくはさこをとりてあるて
灌仏をくいうを志を鳥帽人このさかりおりすとのくを九源せちなをひはく
はをくかりをそり乃寺師あをあつりて志りくく院宮れた
いさくかりをそり乃寺師あをあつりて志りくく院宮れた
の儀わり
中間の日かをのさつりやりつ一の日上つ陣の座はを高て六
府とありてきいのりり仏をりはのなりぬれを仮をを
立れはいをいをやり毎をいの一源の大路をわるを

こゝろ地しれぬ程なる事なり流れさらぬなまじなる時は
一條大納言殿なくてかくしてかくしたる人々の例はわが孫
宮人とも女房達まかり立てあくさつりそれも大納言乃
まに〳〵陣わりして出給へりとて是まつりて宣
旨給はる四位四位おのゝ所をたゞしく奏して四位
あまたくひらけいとのくもさぶらひとりて宣命を
まふ近衛使中将時雨ゆきて宣命を
所ゆきて人々位を賞じ給ふ殿乃ひさうの蔵
まもてなしたまふ中とうてたまふ元じさぶらを
使仙花門より発ち給ふ左近衛大将
を初め人々をのく孫ゆきまふ
まふ

清涼殿のうらきぬ　とをなりふあいを毎日四位ゆきぬ
蔵人所おのの弓まつりて使ふ毎日役なりけ
ゆきて殿上人仙花門ゆいて清涼殿に
いたんをまて大路をわたりかちうかとなるいかん
を平紀乃とりの入くは前よりしいをゆきいひて
より小兵陣をそれらんあり近衛乃殿上人を初めのけ
かとこの外すくまけいこまくに門の左右よりうつ女車を
ゆるいたんまをそれ初りいひくゆりたりきまいのこ
と中宮宴会ゆりたりに御所なまいの乃はけいそれ
ゆくの陣ゆりの典侍まつりて四陣をそりて毎
蔵人所のうしと申孫をとりてかゝ毎よかく女官いて

[illegible]れを[illegible]ま[illegible]ぬ[illegible]ふりうう典侍わたいとけれ車お車
又女これらもろハわり典侍志ろ[illegible]ハ車わらろハ
車いさ[illegible]ハ前ひさ[illegible]ハ[illegible]ハ車
[illegible]禄をそ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

六の日うゑ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
五月三日六府昌蒲[illegible]ハ[illegible]ハ東西よ[illegible]
四日わさうゑいハ[illegible]ハ一[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
いろ[illegible]
五日のせちそ[illegible]

六月ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
きいうのきこえ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ

てらひきかりせう歳とりてか祝とれおとれと事たて
行かりつつ孫のとし偏かんそちめうをおもくく
花わうとのことし中三かつ・また二間をうへたつる
よ志ひてうり井をもろしうをの巻く首湯よし
こそいくしわうとうりかく湯さてとつこに四ちう
りん示の教れたやくれうり人日れわした日ことにおりをちち
ちんりかり祿あり

六月一日長尖乃湯せんまいつ時乃さい巻つとむ上格子ち
さ記まわり向もうわ巻くさいつぬ檀ちうをに巻せ
はきこれそん次れしきよ人ち〳〵魚ハ下ロ倍を一乃をいとう
ちうなりうまりうを巻ハそのうをを中と養ち湯ちわをを

はさりてこ花ちくいつせ行ちちく上かし
巻を八日れわちれをいつるたちこまりてをいひちす巻人
うちのくロ伯とりてまりてをいひちす四乃
ふを巻をれゆしくうるをよりそる巻をわををく
れい巻ちいつなりれあれこひちいさ沢ロわよをくまりと
れりのあいちくまりわちへこうかしをあいうんれよりむ巻
うり湯せじよ一よちうさいつ七月つこりるまそちくとまる
六月十一日湯神事一日ちりはまる行事ちるれちくめにも
湯ちくれれ饗来をたてまりるくまてて次五ハをちを巻
神ちこまちうこれまり大長乃れ湯をめすうこにわひちち上つ
陣よつれくを奇をめて法月れ異不をうふれ忌湯燈を
れをとものを決ちてうりわちむ上ハ宰相弁少納言

外記史うぢのぶ人（以忠を義忠とあらため用
白おほのまさにき）西殿おほ（清田佐）乃こと及同方一所
興たてそ花なりとく養方ほけわうてに興南いよよ
す上首乃すけ銀重乃後つぐむ清興よめうけいひら
外一月をつ法ほ門ほとをく中和院よりうほ大ほの忠わ
くみつまて清興を祇ものをもかれくいほとぬものく
名えうを清興神嘉殿西むさの渡よすもけうう次神事
のこうく下清神嘉殿乃ひさうこういうせ法大家ほ乃清殿ほ法
を法このおせらんくうてたうものを家おそ月に殿をうの
四殿をんよしうれとううをたまれけうをようく南白乃殿
を西うくおうまぬのとうかけ毎朝大家ほ乃上よと
に法のくちう稲へ時を申五日ほうんわをて神殿まうて

寝かをを法をうれうさ祇五太近のつさ夜の東西よ陣
をしく用りん周引なしもてく上卿ら下神殿まんへよ
つ〜のりそ月方太中ねるものく一人をくんくうをぬら
ぶときてもそのさ太乃こりをかくうちつひ乃答さ
う枕屏へそこをく上二条儀弁少納言外記史ちうよ
祇法を周へやり入ねもこはかりんのこまりうく神殿をたく
枕のうい二巻ハうう行うそのの上二九人れ〜月七てこち上二八重
たくこ〜九人の中一てうをいうう東ましいて牛ちう
しのうこそくくさう枕ハ八重そ〜月れ〜たに枕よ〜四
結まりてれかを西を八重広ものの上ようてまつるれう
肩うハようう清うう月れわとよかくく四位ちを表く神殿

又入山わり神社の東、[illegible]川のほとりにまてらをもうさく
山寺とて筋乃くらこの山はせ法いわりこのつゝみ人うれ
まへよりたせてそうそうまてこそ上は神さぶ供とをいせんの乃
う神へうえのそうそうとゆ乃くまつりてんてゝ此よりまゝ
とり乃うへ清をうをおてまいれをいせんうりてまつり
てこのくらこれうんかさ祖ゝ物てさりのいこゝし次第に四
りぬれいう神へひてをうりてさいゝするふまこいる入うせ
あまゝをゆやゝ二乃やゝわり二ゆずゝ四人なの屋うせ神
今食八五おたりゆりうひりてすくけゝゆへすりこい
さ屋ゝしたなみえゝりうまつるゝろゝさまつりてゝ
いふてそくくかゝわいのゆくんゆさまつりぬれい変立のと申ら
神へ又ゝてのちゝこいよいゝゝゝ初念のとわりてく後ゝれよの

さゆのいとゝゝ社秘事ゝゝゝゝゝゝをとにそよすその後ゝりいゝせ
ゆゝ一ゝ又わゝゆゝさ乃神のゆゝゆゝ乃ゝ乃のゝゝゝれてゝう神ま
りてゝゆわつゝさ乃神のゆゝゆゝ乃ゝ乃のゝゝゝれてゝう神ま
せゆゝりとれゆせゆりくゝゆゝりくゝゆゝを祖ぬゝとゝれゝ情懐
来文ゝにゆまゝ神紙宮ゆゝあくゝおこれゝりゝゆゝゆゝ宮の蔵
へなりてゝゝ此ゆ懐来ゝてゝまつりて神紙宮へゆ変ゆゝ乃
神ゝんの此ゝ近法府の恪ゝゝてゝゝわゝゝゆの此ゝんの狩ゝ
ゝゝゝかゝまゝくゝゝゝゝゝゝ

外せんとすると雨又雨さうれいなく伊勢人乃中を出
陰乃すゑ清ゆれはまつるうへのこゝろくらゐは我を義ち
たてゝ[illegible]ゝ者せす神殿の方じゝみくせらしれを
そゝなそ清ゆ称はれゆゝしゝめくいつせあしひやさて
わさ乃衣はゆゝひゝさゝよの中ぬさすてくうゝよゝ入ゝまゝれはゆゝ
ゝひをあてわゝせ法ゝ法吊れか世義まを中に四義まゝ
れそまつをねせ法つれゝ又ぬいゝのまゝれそまつまゝ
ゝゝゝきゝいわくふゝゝまゝつゝゝゝゝまゝれまて
まゝれゝくれかゝゝれゝれよゝをねゝゝゝれゝれ
えいのまてゝゝまゝへよひゝまゝふゝすゝれゝれゝゝゝ文清常じん
乃をんゝゝゝれゝゝねゝゝゝれ
まゝの大酒ゝ乃をれよゝをいまゝれゝゝゝくゝ口清ゝゝ

わゝれけゝ
つゝのわゝたけゝいのれゝゆゝまゝるひの清れ乃人家よゝて養整
一ゝゝをゝゝゝ供をれゝゝゝゝゝけゝりゝれれゝゝれゝくゝゝ
ゝ口ゝゝてれゝゝゝゝゝれ
けゝいのれてゝ法ハ清平のゝれまの今ゝをゝゝ清をて大家よ
まへよゝあゝ本乃今ゝいをまへゝくゝゝゝゝの酒よゝゝゝ乃上ゝゝて
ゝ一清ゝのゝを入ひゝゝゝへゝゝゝれてゝつれゝゝ二かゝゝけゝれゝゝ
ゝゝれゝをゝくゝゝ乃酒よゝハわゝゝゝゝれゝれゝゝゝゝゝゝ
いせんの人ゝひゝくゝけてゝゝれゝれゝのゝゝゝまゝゝゝ次ゝゝゝゝゝゝゝを
下ゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝ

十八日陰時のまつりに参いり申候しに花南じさ法
祥のかたよりふんよむうるせ法師をへく清水いの花れ夜ぬく
東寺よりしけを参らに参らしく南ぶよむきく供を添
れこりを乃表れわっぬまるわく世にこ世のれ参へく二月よ
清屏風をくれ花をくれけいのれ花のく孫廂こじめ
そちれ障子の西一月屏風をうりうと大とる焼魚とく
すあ清のかたふはけ西のすハの参にこ参りむ
参ちんもむとしいそ文日れくへてくんくうくなを
あせいの具足わり節析の新婦竹を持くまりりく
れけりりをめてれこ乃すは法をりいて文とるりわて
りくせてれりへをつこ参りりいをてく福をの

七月四日いろせ参てく乃条四月三ある

七日ろく人れてくこをりをぬ夜よ入くを夏わり庭こけく
志四をそく燈巻九女をのくこりく大ありけく志よ文く
のれを志くりを志ろのくをりをれくこをくけく志れを大
をりをを決くくをたをわりりんやをを何を養をそこ
を化よこの侯何りつ孫ゆかんむを親事品を律わをの
を了へをりを志人をくを

祈年ろく奉幣日にいてを参し女二月りある

八月四日小のをまつり祇園こかれ

上下日ごとてん二月よりかつされ日常生乃見系養
す上ゝ使府ゝつきて養と常生に祝と毎ゝ
四福義ゝ法ゝ法ゝ法ゝ

十五日いろ〳〵あ放生会毎ゝ上ゝ宰相
弁府ゝとむふ宣旨ゝ使ゝ

十六日志ゝ片〳〵こまいき甲斐乃ゝさゝ下ゝ
ちゝ法ゝ毎ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
そゝ毎ゝ上ゝ宰相弁ゝ納言近衛ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
わゝ家ゝつきて法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ

論ゝ法ゝ幸儀ゝ別ゝ家ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
すゝ四裏ゝて一ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
院長文ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
ろゝ法ゝ法ゝ四法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ

九月三日御燈三月ゝ

九日ゝ法ゝ三月ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
毎ゝ屋ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ
ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ

十一日ゝ屋ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ法ゝ

とりて前後よりつゝみ近傍のものをしたがへ人々
御興（おこし）惹花りらの間しるされ養れし神祇官に仕奉
なりてかのひさうにはこうとすこうりの間ゆい二人供
近衛のもけ劔璽をやりつゝ二つ孫のゝ下御りく
ひゝたきの田舎よりゝせ給人家のゝうゐりあしあ
のゝ御いそ障よりそくへてとすゝ東けの田舎乃乃に
田舎いをけゝてあるよくけたにじをうつ孫の乃ふれ
家いの田舎を西ゝくけるのゝまけれゆのひとわり
上々座のさにつゝて宣旨と養と昂れ御帳とそもをあく
ゝつゝく御あいの田舎よれ也給れをくめて田祥けう
つさよゝりとすゝ二ゝふ納こまりて色むよ者申と
ゝいじへあせとたわせらゐ乃納てひさ西つさて御りあら仮

りてあくいせゝたくゝ輝ていけ中とゝんいむへまりて
角んよ乃まりいじへをすゝん色さりて御文乃田幣
とりてゝゝへよつゝその後田文の田幣といむへゝいて
しくゝりてたくゝ者杉くゝ角んよゝりけくへさ者と
者す中ゝゝさいつじまりて御幣とゝゝけるわじの下よ
ひさ西けくゝくりて者りれと伝らる中伝侍て
御使の主御るりゝとゝつ孫のゝりへいれと神祇
官東門をいくゝ二源の大路よりゝかゝに田舎をゝせ
給けいひられ忘者ゝ陪りゝて還田つのゝこゝし

不かじてんのゝゝ古書養よれゝ黄りん文とりて
御らせをせらゐ大長ゝゝゝゝ許をゝみゝ結申

十月一日御衣えのゝ宮へ参り給ふ

ねのゝ御ぐしまゐらせ給ふ

十一月一日長大乃内ゝ人はかまはつる　六月のおはし　長日祭

ゝ仕伝紙のまつり二月ゝ月ゝおはし

ゝ七日ちじえの会　四位は衣をうちでぶ（十文字の日）（長元元年の日）

廿の日大節はまいりはまいる　ゝ人のゝ花一ゝ人まゐりのゝ

花ゝのゝ御ゝいうらくさいりゝ　ゝまゐりゝのゝ　帳台

御ゝ御ゝ方ゝ上ゝ人ゝ　ゝ　ゝ　

かぐ定

ちかのはらむのあり
いるまの乃はゝ時ゝうゑをれ
ゝうゑ乃ひさ入く
はらんせら社ものとや

辰の日さよれわうえ高倉や新嘗の祭まゝ御上
京い宰相弁とん乃さうゝ福ものとんとそくたいの上
さうとうふうゝくわとゝうとうわる上こさいさや弁
の上首とつとむ西夜のひさゝよゑみとまゝきく社よけく
亜さ社よゝ御や大奇西れへたゝ大ゑをよわてまいひめの
ゑ乃ゝひ神をゝせうゝ乃ゝ上生戸立高西
うゝひくさいゝうゝおとゝ毎高倉の家乃のさゝ高
会の日と寿喜のらん乃ありせちゑれ夜まて清拍あ

ゑこゝ乃ゝとれゝ
てこのこゝとゝうふむの例さふれゝとめを御ひゝ乃ゝと
ゝふゝうゝくゝ四月十六日ようゝ乃ゝとわ月ゝ乃ゝ
のれてゝ社六月のこゝ
ゝ寿ふいのゝらむふよゝんゝ庭う毎夜上人ゝら福ものわう
れ月ゝく式節のゝゝもゝゝ社ゝれゝ中ゝくゝうゝかゝす
乃ゝらよゝうゝとゝ

十二月ついゝちいむ夫乃ゝ西ゝんれわる和さ社の月ゝおゝる
十日御祥乃ゝゝう六月にゝるゝ上ゝゝんの社ゝくゝ御ゝ
ゝゝを御下れゝゝゝ西ゝら年六月まゝてのゝをゝゝ
ゝふゝその方ゝ神ゝゝわゝはいのゝゝ上へさゝゝかゝのゝるゝう

十一日邪今食六月より

賀茂の祭の時乃まつり表月下れ面ゆ人々れしと忌月なる
ゆへ忌ゆ手れ面よとこかなる石清水の御れとゝ参しれあ
いのさりれまゝふかむ歌やみあこ二乃さらうあ御わり
うろれ方うう御れよれ世れそうたるゆ面食いれな
のされふまう行食乃ゝれつ祢のいゝ社頭の後ゝ
れし第人ゆさりてう食りゝれさわう孫ひゝうれ
傷よとゝ面ひきかゝふれ行ゝいとあれかれ世ら
ゝ世れりれさのゝとゝれ食南小二行よ元とゝ歌ゝ後
第人行ゝうろよ本乃ゝれ不作人つゝ志ゝ近れれ
ゝ人ゝ志ゝ御有ゝゝ志ゝ三ゝ有ゝ歌ゝ御ゝ食の下

小松宮つきゝく後宮とゝ後あじゝいありてかゝゝあり
食ゝうゝうゝあてわさゝゝゝのこまゝてれゝ乃ゝう
食ゝりとろ方有人々れい人長さゝ後ゝあり御神楽て
二ゝ祿あり
中宮の世たゝ人れ行つゝれゝゝゝゝゝれまゝ世
ゝの歌やゝて行ゝ人ゝ歌ゝれゝゝとゝけ世ハ行歌れあ
なゝとゝゝ後

四行不乃行ゝて行章行ゝゝ典行章行ゝゝ乃ゝ
わゝハ二人ゝ本ゝ二ゝ世ゝう四行不ゝ四章ゝあ世ハれ
ねゝゝ乃ゝれゝ申ゝ乃ゝ不作人有衣の西のゝあゝく
ゝ祿わゝ四行不乃章ゝゝりゝまゝまゝむゝとゝさて

宮人達大とたく年末の夜二仏ふまきをうを来り
人うゝろまあり人長すゝ志ふよこ元やきうふよ元りよ行く
人長ゝうてひさつきゝ也ゝ可ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
よあすゝえひちアさをとすゝ乃ゝ与ゝ志ゝ乃ゝ与ゝ志ゝ
つさふつさてゝ行ゝまゝ行ゝ人長ゝ可ゝすゝふゝ志ゝかゝく笛ゝ
ふゝむ相ゝふゝとゝさゝゝゝ毎ゝす志ゝのゝゝゝしゝひゝゝきゝふゝす志ゝ
行く和ゝ日ゝゝゝ井ゝよゝゝすゝ年乃上ゝよゝ者ゝすゝゝを行ゝ乃ゝゝ
ゝゝあゝひ達大ゝとゝす志ゝゝて人長ゝゝて入ゝゝ可ゝ
ゝゝの相ゝふゝあゝけゝく後人長ゝゝゝてゝゝゝ可ゝゝ
ゝ神ゝゝて又ゝゝみゝくゝさゝい乃ゝたゝのゝこゝめゝすゝゝゝの志ゝ
ゝゝすゝゝてゝひゝゝゝゝつゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ可ゝゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三月ゝてゝわゝさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
経河の清神示い秋の季ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
作ゝゝ河ゝ時ゝゝ季ゝゝ清ゝゝ不ゝ乃ゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
河清笛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
還清あり
京宮乃陳日ゝ儀ゝ重ゝ長ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝ三月乃養ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
御佛若十九日ゝ今ゝ三日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中おるけて南の人のまに又二ツてけそりひさうよ
ぢこてへむの屏風とりい西の世ハ人来れ屏風や花こ
くつん見えとお后のきはけさいせうかれとてい祇まる
ゆひ引はたりまつせ年女しやうれとれとむてひさし
る恵祇井和漢夜とのへ法師はかうわつを
歳人れをつとむつけ綿乃わり祇ちこれゆさよわと
入くきのこの小乃方に旧伯の麓下とひくみをと越
くいこくくく人清寺師出うたりうやもて名福
乃小方清水に西てれ出寺師ちりくがにていのひや
しとうちくわせもてくまいてすく西やろうきも
ことよりかりすりんちくこすさくものくうれ
ふりくき黄ゆ大将のうれ井申仏名の中れ和なて

ちうしやゆうしもゆくせ一乃りて右大将乃福をこうふ
仏名れ法導師ハ音ハうしすくとうへくれい村と乃清代
れとハ和乃おうふくゆうりんと祝わつせら彩くことゆと
ものりきるや

荷前ハつひくをうゆくうりくきゆくまくくものくハ清ふ
てまつるる供ハ石卿ちり次宮そひうり若乃役の完
れつ井くよ元日れ樹伯清の行こあり朝賀ハ西れを
こが望ぬとうれと松しう屏りれうだめり

けいりハ大と行りまうれをけとむりんやうまうまいさりん
をりりて南殿の百人よつ歌くくし上ら下うれを

如及上人之法藏の文にそなはりたるを
仙花門より入て東庭をへて瀧の戸よりこ
しかたにうつり出て東庭あるさ
き野たいらん所乃上人之りあいとしまか
くたてまつりそや

正平七年冬作入道准后令書写之同八年正月
十八日校合之参議左近中将藤原朝臣公冬作候て
此秘記日野中納言（広光卿）借用之上中下巻如
本奥書以下出写之也仍本奥書後村上院御
自筆之弥尚家重宝秘蔵之比類之不可
思議之也

（山富親房）

千時文明十七年十一月十四日書終畢

参議藤原判

以校合日野中納言出法眼上中下巻等因之